

「噴煙を上げる溶岩ドーム」



樽前山 9月

この写真は、2019年9月に、樽前山の登山道調査をした際に撮影した一枚です。この年は、樽前山以外にも、札幌岳・空沼岳・風不死岳（ふっふしだけ）・恵庭岳の登山道調査を実施し、階段の破損箇所や採掘、ロープ場等の状況を確認しました。

支笏湖・定山溪地区の山々の登山巡視も仕事の一つですが、園地内の破損しているベンチや木柵、看板、危険木（腐敗している木や電線に引っかかっている木等）が無いかということも確認しています。また、大雨や台風後に、浸水や倒木の有無も調べています。

「虫はどこ？」



支笏湖 2月

一面銀世界となった冬の支笏湖。その近くの森林で、コゲラに出会いました。白と黒のまだら模様の翼が特徴的で、日本のキツツキの仲間の中で最も小さいサイズの野鳥です。コツコツコツ…と木を突き、餌となる虫を探していました。まるで「虫がないぞ！虫はどこだ？」と一生懸命探しているようでした。愛くるしい姿に、癒やされた時間を過ごすことができました。

「業務紹介①：自然観察会の開催」

支笏洞爺国立公園管理事務所は、一年に数回、自然観察会を開催しています。パークボランティアさんが解説者となり、一般のお客様に支笏湖の植物や草本、野鳥等の紹介をしています。アクティブ・レンジャーは、観察会の日程調整や広報依頼作業、現地下見（動植物・コースの危険場所チェック）、参加者受付作業を担当し、イベント企画にも取り組んでいます。

普段は、「休暇村支笏湖」という宿泊施設の園地内で観察会を



クマゲラが開けた穴

実施しています。春は、国の天然記念物であるクマゲラが樹木に開けた穴を発見しました。クマゲラ等のキツツキの仲間は、木の内部にいるアリ等の虫を捕まえやすくするために、ブラシのような舌先が特徴的です。夏の観察会では、昔、千歳市美笛地区に鉱山があり、昭和11年～61年の閉山まで約20tの金が採掘されたという歴史の話が紹介されました。秋の紋別岳登山では、朝から夕方頃まで、熟したコクワ（サルナシ：キウイフルーツの仲間）等を観察しつつ、実りの秋を満喫しました。冬は、スノーシューを履き、自然の氷像が見られる七条大滝を目指しながら、エゾユキウサギやエゾリス等の動物の足跡、上空では飛翔中のオジロワシを見ることが出来ました。



観察会の様子



冬の七条大滝

「業務紹介②：特定外来生物の除去作業」

特定外来生物の「オオハンゴンソウ」という北米原産の黄色い花を咲かせる植物（キク科）の除去作業を実施しています。オオハンゴンソウは、地上部が枯れたり、刈り取られても、残った地下茎から茎を出して再生し、生息域を拡大するため、スコップ等で株を根ごと掘らなければなりません。花をつける前（種子拡散防止のため）の7月中旬頃に、パークボランティアさんや民間団体の皆さんと協力し、活動しています。



作業の様子

外来生物による生態系への被害防止三原則は『入れない』『捨てない』『拡げない』。これを心に留め、適切な対応とご理解・ご協力をお願いします。

普段、生活をしている中で、自然とふれあうことは少ないと思います。この世界には、私たち人間だけでなく野鳥や哺乳類、植物等、多種多様な生物と一緒に暮らしていることを、この観察会を通して、気づくキッカケになれば幸いです。

経済中心ではなく、自然にも配慮した世界になれば素敵なことだと願いつつ、業務に励んでいます。みなさんも、観察会に参加してみたいはいかがでしょうか。